

補助金等支出明細書

1. 補助金等の名称	平成19年度自然と人の共存のための湿原生態系保全および湿原から農用地までの総合的管理手法の確立に関する研究委託業務		
2. 事業の目的及び内容	<p>(1) 目的</p> <p>「湿原」は、多様で貴重な動植物の遺伝資源の確保や、機構変動に多大な影響を与える炭素の貯蔵のために重要な地域であることに加え、近年では、環境浄化機能や都市及び農村空間における多様な自然環境の重要な構成要素等、湿原の持つ多角的な機能の重要性が認識されつつある。しかしながら、開発等による、面積の減少や湿原環境の劣化等が指摘されているところである。</p> <p>本業務は、湿原、特に遊水池に生息する動植物の構成や分布、多様性などを把握するとともに、動物生態学、植物生態学及び生物気象学等の手法を用いて湿原に関わる希少野生生物の行動圏、生息環境及び繁殖阻害要因等を解明し、湿原の生態系及び生物多様性の保全のための湿原環境の管理及び評価システムを開発することにより、良質な湿原環境の保全・管理に関する具体的な手法の提言や希少野生生物の復元・維持等に資することを目的とする。</p> <p>(2) 具体的な内容</p> <p>釧路湿原において、下記の調査研究を行った。</p> <p>I:湧水地周辺の自然環境 湧水地及び湧水地周辺の自然環境について、植物、水質・底質、大気循環並びに各種野生生物などについて調査研究を行い、湿原生態系に与える湧水の影響を明らかにした。</p> <p>II:湧水地に係わる絶滅のおそれのある野生生物 釧路湿原に生息し、絶滅のおそれのある野生生物であるイトウ・タンチョウ・キタサンショウウオ・マリモの生息・生育状況、生態及び湧水との関係性などについて、調査研究を行った。</p> <p>III:上流域の開発が湿原生態系に与える影響の解析 湿原上流域の開発が湿原に流入する河川を通じ、富栄養化及び土砂流入等により湿原生態系(魚類・水生生物・植生など)に与える影響を解明した。</p>		
3. 交付先の公益法人の名称	財団法人 日本鳥類保護連盟		
4. 交付実績額			8,870千円(A)
(2) 一般管理費			659千円
(3) その他の管理費			
	内 容	金 額	
		千円	
	合 計	千円	
6. 外部への支出	(1) 外部に再補助・再委託等されているものに関する支出		
	支出内容	支出先	金 額
	ハンノキバイオマスに関する調査	(株)インフォシーズ	2,448千円
	苔類に関する調査	(独)国立科学博物館	762千円
	合 計		3,210千円(B)
	(2) (1)以外の支出		
	支出内容	支出先	金 額
	旅費	調査研究員	1,101千円
	諸謝金	調査研究員	1,575千円
	賃金	現地調査補助者	300千円
	借料損料(調査自動車借上げ)	調査研究員	953千円
	消耗品費(発信機他調査用具)	物品販売業者	350千円
	合 計		4,279千円
7. その他			
	内 容	金 額	
	消費税及び地方消費税	422千円	
	合 計	422千円	
8. 再補助・再委託等の割合			36%(B/A)